

平成28年度 学校評価報告書

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業の始めに、単元等の「目標は明確に」することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。②授業の中で、できるだけ「説明は短く」し、生徒の主体的な学習活動を充実させ、思考力・判断力・表現力に繋げていく。③家庭学習の定着・自主学習の習慣化を図るため、ネット配信教材を効果的に活用する。	①単元等の「目標は明確に」し、学習に集中して取り組ませ、基礎的・基本的な知識・技能の習得率は向上した。②単元のまとめのときに、生徒が主体的に学習活動をする機会を設け、思考力・判断力・表現力を高める取組を進めている。③ネット配信教材の活用については、学習環境をさらに整備し、自主学習の習慣化に繋げていきたい。	B
豊かな心	①学校生活や地域活動など様々な場面を通して、気持ちの良い挨拶、ルール・マナーや時間を守るなど、規範意識を高め、礼儀を大切にしている指導を徹底する。②道徳の授業の質の向上、人権教育の充実を図り、互いの良さや違いを認め合い、相手を思いやる心を育てる。③①、②をふまえ、生徒自らが課題意識をもち、考えて行動する取組を進めていく。	①学校生活において、気持ちの良い挨拶、凡事徹底が浸透してきており、規範意識や礼儀を大切にしている指導は高まっている。地域においても徹底が図られるよう指導している。②道徳の教科化をふまえ、授業時数の確保、教材の一本化等、質の向上を図るとともに、授業で学んだことが普段の生活に生かせるような取組を進めていく。	B
健やかな体	①健康診断、体力テストの結果から、自分の健康状態等を把握し、自分で健康管理できるよう指導の工夫改善に努める。②学校医、区役所等と連携し、食育講演会を各学年ごとにテーマを決めて実施し、食教育の充実を図る。③生徒保健委員会を中心に、ケガの予防、発達段階に応じた栄養の摂り方について学習を深め、全校生徒に啓発する。	健康診断や体力テストに積極的に参加する姿勢は見られるが、う歯や視力の治療率は低く、自らの健康管理については課題が残る。②生徒の発達段階に応じた食育講演会を実施することができた。③今年度は防災にテーマをしぼり、安全マップや目黒巻などワークを取り入れた活動に取り組み、掲示物で全校への啓発を行った。	B
教育課程 学習指導	①各教科の授業時数を確保しながら、生徒会活動や教育相談、部活動の時間を保障できるよう、短期、長期スパンで教育課程編成の工夫改善に取り組む。②単元や内容のまとまりごとの観点別学習状況を文章化し、評価の改善に繋げる。③課題解決型学習の研究を進め、生徒の思考力・判断力・表現力を育てる単元づくりに取り組む。	①授業時間を確保しながら放課後の生徒たちの活動時間を保障するため、時程の変更を行った。次年度からの運用の中で、学校生活のリズムを変えずに柔軟に対応できるシステムを構築していく。②学習評価コメントは内容の改善が進み、成果が表れている。③教科会・授業研究の内容を充実させるなど、継続課題として取り組んでいく。	B
児童生徒指導	①生徒指導に関する迅速な情報の共有化、組織的な指導の徹底、小中一貫した取組を進める。②授業や部活動など学校生活の様々な場面で基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。③生徒の抱える悩みや心的ストレスを感じとり、問題解決に向けて適切な支援ができるよう、教育相談の質を高める。→カウンセリングスキルの向上	①組織的な生徒指導を徹底するため、生徒指導連絡会において指導部内の情報交換を密に行い、生徒理解を深めた。学年を越えた指導が必要な場合にも迅速に対応することができた。②日常の様々な場面での指導の中で継続した取組ができた。③生徒理解を目指した研修をさらに充実させ、継続課題として取り組んでいく。	A
地域連携	①授業公開、学校だより、学年通信や学級通信を通して、学校の様子や教育活動の方針等をタイムリーで質の高い内容の発信を目指す。②学校HPに「原中の日々」のページを新たに開設し、タイムリーで質の高い内容の発信を適時更新する。③学業地連の事業を活用して、生徒の地域ボランティアへの参加体制を強化し、地域とのつながりを深める。	①②情報の発信は、定期的な通信や学校HPの充実が図られ、一定の成果が見られた。保護者・地域からの情報を迅速・適確につかめるよう工夫していく。③地区懇談会や地域事業を通じて、地域と学校の円滑な関係を築いた。学校規模が減少していく中、地域のボランティアに参加する生徒が減少していくことが今後の課題である。	A
特別支援教育	①個々の状況に応じて、学校生活に必要な情報を確実に伝える工夫を施し、授業のユニバーサルデザイン化も研究する。②それぞれのニーズに応じた学習支援の充実を図る。⇒ネット配信教材の効果的な活用③「障害者差別解消法」に基づく、「合理的な配慮」等の支援体制の整備、適確な特性理解と合意形成について、教職員の理解を深めていく。	今年度、特別支援教室の運営や個別の学習支援(取り出し授業)については、職員全体の協力のもと、充実が図れたと考える。①②の授業のユニバーサルデザイン化やニーズに応じた学習支援の充実については、今後更に全体で研修等を行い理解を深めるとともに、個々に応じた方法を探っていく。	B
人材育成・ 組織運営	①日常的な業務の実践と振り返りをともに、主幹教諭・学校用務員・事務職等をメンターとして、OJTをさらに充実させる。②一人一人が学校運営組織の一員であることを自覚し、積極的に学校運営に参画させるために、役割と責任を明確にする。③業務が個業化・分業化しすぎないように、進捗状況などを相互に確認し合える機会を設定する。	①②③既成の研修よりも、日常的なOJTが効果をあげていることがわかった。教科指導など特に綿密な情報交換を要する案件は、スライド番号内で打ち合わせができるよう工夫した。大規模校だけに、教職員間の相互理解や協働がとりにくい部分もあるが、次年度の課題として継続していきたい。	B
ブロック内 相互評価 後の気づき	小中一貫教育の全体会を通じて、それぞれの学校の「重点課題」を確認できたのは意義のあるところであった。各校が教育課程を工夫し、それぞれがどんなテーマをもって教育活動を行っているか知ることは、中学校として、どのように育てられた児童を新入生として迎えるのが事前にわかり、連続性のある指導計画を立てることができるという意味で大きなアドバンテージであった。合同授業研究会を通じて、各教科・分野ごとに有意義な情報交換が行われたようであった。教職員一人一人の「顔の見える交流」がより一層深まったと感じている。		
学校関係者 評価	授業を参観して、整然とした落ち着いた中で授業が行われているのがよくわかった。昨年度と比較すると、授業者の立ち位置が変化していることに気が付いた。以前は教壇の前に立ち、講義調の授業が見られたが、今回の参観では授業者が生徒の中に入り、授業と一緒に作り上げている感じが見て取れた。相互にやり取りをしながらの授業展開がよかった。生徒・保護者のアンケート集計結果から、スマートフォンの所有率が低いのがわかり意外であった。しかしながら、依存率は高い様子なので、地域家庭での対策は必要である。		
学校経営 中期取組 目標 振り返り	今年度は、「生徒が実感できる学力向上」、「主体的な生徒活動の充実」の2本柱を重点に置き、学校経営を進めてきた。そこで、それぞれの分野で具体的取組を進める中で、この2つの重点課題との関連を意識して取り組むことができたかどうかを総括評価の視点に取り入れてみた。学校運営組織の一員として、職員一人一人の学校運営への参画意識が高まったか、個業の寄せ集めではなく、組織的な取組が進められたかどうか、成果と課題を把握し、次年度の学校運営の改善に努めていく。		